

すべて故郷の味

えちご妙高会
バスツアー

えちご妙高会による山菜・温泉を楽しむバスツアーが十一、十二の両日、妙高市内で行われた。妙高山麓で山菜採りを楽しみ、山菜づくしの料理に舌鼓を打った。六回目の企画を、地元で交流を深める受け入れボランティアたちが楽しく盛り上げた。



ツアーの参加者は妙高出身者とゆかりの人たち。今回はリピーターを中心に二十五人が訪れた。池の平温泉で山菜採りを夢中で楽しんだ後は、ハートランド妙高(妙高山麓都市農村交流施設)で山菜パーティー。妙高市観光商工課の早津之彦課長らが迎え、山菜に詳しい妙高支所の宮下義嗣支所長が、地元で

テーブルに並んだ山菜料理。6回のツアーで毎回アレンジされている。今回のいち押しは山菜コロッケ。肉は入らずフキみそと地元産ジャガイモで作られた

山菜づくしに満足

採った七種類の山菜を持ち込み、交流応援団の藤澤佐千代さん(61)ら女性三人とへ

ばせた。自家米を使ったお作りそばも提原通出身の



妙高支所の宮下義嗣支所長は、白いウドと緑の進んだウドの食べ方比べを解説

ンションオーナーらが調理し、配せんもおしゃれに振る舞った。「まずはてんぷら、そして生。油いためとおひたし」という山菜料理の定番を宮下支所長が解説。ゆで時間は沸騰後に三十秒で、すぐに冷水に入れる、というゆであげのコツも披露し、参加者たちを喜

中でいたたい地元の人たちが楽しみ。山菜の味は「おいしい」、小島正徳さんも「ここに来ると葉タバコ思い出す。さすがの味。地元に感謝」と紹介され参加者の向後孝(71)も「妙高はいい山菜がした。来年もし、仲間とブニトでも来たい」といた。



大鹿出身の小島正徳さん。すべてがふるの味に満悦